

巻頭言 就任のご挨拶

コロナ禍における評価

令和4年6月23日開催の当機構評議員会において任期満了に伴う役員改選が行われ、同日の臨時理事会において理事長に再選されました。また、執行体制も従来どおりと決定しました。我が国の高等教育を取巻く環境は大変厳しい状況にあり、高等教育の発展のために、認証評価機関が果たすべき役割はますます大きくなっていると実感しています。責任の重大さに身の引締まる思いであります。

現在、当機構においては、(1) コロナ禍における第3期認証評価(内部質保証の重視等)での円滑・確実な実施、(2) 第4期認証評価システム(令和7年度から実施)の構築、(3) 中教審大学分科会質保証システム部会の求める認証評価の改善・見直しと設置基準改正等への対応、(4) 学校法人ガバナンス改革のための私立学校法改正への対応など、課題が山積しています。

引続き、これらの課題解決に向けて最善を尽す所存ですので、ご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

新型コロナウイルス感染症の拡大は、令和2年度及び令和3年度の評価の実施に大きく影響し、評価員会議、実地調査等のすべての業務を対面からオンライン(ウェブ会議)への変更を余儀なくされました。

令和4年度の認証評価(第3期5年目)については、現時点のコロナ禍の状況、過去2年間のオンライン実績等を踏まえて慎重に検討した結果、実地調査などの評価業務の一部は対面に戻す形で評価を実施することとしています。

コロナ禍の収束は当面は考えられないものの、世の中の流れはニューノーマル・ウィズコロナと称し、新型コロナ



公益財団法人
日本高等教育評価機構
理事長 石井 正彦

ウイルスとの共存・共生を考える段階に変化してきたのではないかと考えます。

当機構の認証評価に関係する方々のご理解ご協力を賜りたくお願い申し上げます。

新役員名簿 (敬称略・五十音順)

●理事(18人)

〈理事長〉

石井 正彦

〈副理事長〉

安井 利一 学校法人明海大学理事、明海大学学長

〈常務理事〉

伊藤 敏弘 公益財団法人日本高等教育評価機構事務局長

〈理事〉

青木 二郎 弁護士法人内幸町総合法律事務所代表社員

石田 優子 学校法人石田学園副理事長、広島経済大学学長

石津 和彌 学校法人福原学園特別顧問

小出 秀文 日本私立大学協会常務理事・事務局長

清水 一彦 国立大学法人山梨大学理事、副学長

瀬戸熊 修 学校法人千葉工業大学理事長

瀬野 隆 学校法人国土館常任理事、評議員、

国土館大学名誉教授

高井 昌史 株式会社紀伊屋書店代表取締役会長兼社長

高柳 元明 学校法人東北医科薬科大学理事長、

東北医科薬科大学学長

塚本 英邦 学校法人塚本学院副理事長、大阪芸術大学副学長、

大阪芸術大学短期大学部学長

中山 峰男 学校法人君が淵学園理事長、崇城大学学長

久光 正 昭和大学学長

水戸 英則 学校法人二松学舎理事長

三輪 博美 学校法人名古屋電気学園常務理事・経営統括本部長

安井 利一 学校法人明海大学理事、明海大学学長

山谷敬三郎 学校法人北翔大学理事、北翔大学学長、

北翔大学短期大学部学長

●監事(2人)

妹尾喜三郎 元大蔵省(現・財務省)印刷局長

三田村典昭 三田村会計事務所代表

※任期 令和4年6月23日～令和6年6月の定時評議員会終了の時まで

評議員名簿はホームページ(トップ→機構の概要→組織と名簿)をご覧ください。

C O N T E N T S

巻頭言⇒就任のご挨拶	1	大学教職員のためのよくわかる認証評価	
報告⇒令和3(2021)年度 評価結果	2	⇒当機構におけるピア・レビューとは	6
STUDY・評価システム⇒実地調査での学生面談	3	Annual Plan & Report(事業計画・事業報告)	6
インタビュー⇒富士大学 青木 繁氏	4	From JIHEE⇒実地調査を対面で実施 評価員募集 など	7
東海学院大学 神谷 眞弓子氏	5	会員校	8

56大学・7短期大学の認証評価を実施

当機構は、令和3(2021)年度に、56大学・7短期大学の機関別認証評価を行い、その結果を令和4(2022)年3月に公表しました。また、16大学から34件の改善報告を受け、審査を行いました。

■ 学修成果の点検・評価等に優れた取組み

56大学・7短期大学の機関別認証評価を実施した結果、55大学・7短期大学を「適合」、1大学を「不適合」としました(表1)。「不適合」の要因は、学修成果の点検・評価の実施体制及び方法が確立されておらず、教育に関する内部質保証の体制やPDCAサイクルの機能性に課題があることでした。評価結果を基準ごとに見ると、「優れた点」は基準2「学生」に最も多く82件あり、「改善を要する点」は基準5「経営・管理と財務」に多く39件ありました。また、更なる取組みが望ましいと判断した事項である「参考意見」は、全基準に挙げられました(表2)。

第3期評価システムでは、内部質保証を重点評価項目とし、教育と大学全体双方の質保証の実施を求めています。教育の質保証の取組みの「優れた点」として、基準項目3-3「学修成果の点検・評価」に、学生ポートフォリオの整備・活用や、ディプロマ・ポリシーの達成度シートによる振返り等、三つのポリシーを踏まえた学修成果の点検・評価の体制や方法が挙げられています。

また、基準項目2-3「キャリア支援」では、障がい種別・状況に応じた個別支援、留学生専用の就職ガイダンスの開催等、多様な学生に対する支援が「優れた点」として挙げられています。当機構のホームページでは、全ての「優れた点」を年度別にまとめて公表しています(トップ→評価事業→大学等の優れた取組み)。

■ ガバナンスの法令遵守に課題

「改善を要する点」の中で、特に多かったのは、学長のガバナンスと法人運営のガバナンスに関わる法令等の遵守状況に関するものでした。基準項目4-1「教学マネジメントの機能性」では、学長のガバナンスに関する教授会の役割、副学長の役割、学生の懲戒等に関する手続きの定め方などに関する指摘がありました。また、学校法人のチェック機能としての監事と評議員に関し、基準項目5-3「管理運営の円滑化と相互チェック」において、監事の監査内容、法人の重要事項に関する評議員会での審議方法、監事と評議員の選任方法などに関する指摘が多くありました。

表1 令和3(2021)年度 評価結果の概要

● 大学機関別認証評価

「適合」55大学(☆は「改善報告書」の提出を求めた大学)

愛知文教大学/☆愛知みずほ大学/☆SBI大学院大学/☆江戸川大学/☆大阪音楽大学/大妻女子大学/☆岡山商科大学/嘉悦大学/☆金沢学院大学/鎌倉女子大学/☆岐阜女子大学/☆九州看護福祉大学/九州国際大学/京都先端科学大学/☆桐生大学/神戸芸術工科大学/☆神戸国際大学/☆神戸常盤大学/国際医療福祉大学/志学館大学/☆静岡理工科大学/☆修文大学/十文字学園女子大学/☆湘南医療大学/☆昭和大学/昭和音楽大学/仁愛大学/成安造形大学/☆帝京大学/☆東京工科大学/☆東京女子体育大学/☆同朋大学/長崎外国語大学/名古屋文理大学/☆奈良大学/☆新潟経営大学/新潟国際情報大学/西日本工業大学/☆日本歯科大学/☆梅光学院大学/函館大学/☆ハリウッド大学院大学/比治山大学/☆広島文化学園大学/びわこ学院大学/☆福山平成大学/富士大学/☆北陸大学/北陸学院大学/☆北海学園大学/☆北海道科学大学/南九州大学/武蔵野音楽大学/☆ヤマザキ動物看護大学/☆麗澤大学

「不適合」1大学

三育学院大学

● 短期大学機関別認証評価

「適合」7短期大学(☆は「改善報告書」の提出を求めた大学)

☆大阪音楽大学短期大学部/大妻女子大学短期大学部/鎌倉女子大学短期大学部/昭和音楽大学短期大学部/比治山大学短期大学部/びわこ学院大学短期大学部/北陸学院大学短期大学部

表2 基準ごとの指摘件数(56大学の合計)

基準	基準1 使命・目的等	基準2 学生	基準3 教育課程	基準4 教員・職員	基準5 経営・管理と財務	基準6 内部質保証
優れた点	18	82	32	31	21	13
改善を要する点	1	15	7	26	39	17
参考意見	3	24	32	12	29	23

■ 34件の改善報告書を受理

令和3(2021)年度は、16大学から34件の改善報告書と根拠資料を受理しました。当機構は、これらの改善報告書が各大学のホームページで公表されていることを確認した上で、改善報告等審査会及び大学評価判定委員会において審査を行い、その結果を大学へ通知しました。

当機構のホームページでは、改善報告書の提出があった大学名と該当基準項目を年度別にまとめて公表しています(トップ→評価事業→改善報告等の公表及び提出)。

実地調査での学生面談

当機構が行う認証評価では、実地調査において評価員が在学生の話を聞く「学生面談」を行います。大学を理解するためには、主要なステークホルダーである学生の意見が必要と考えているからです。

■ 自己点検評価書の内容を確認

学生面談の目的は、学生の意見や感想を通じて、大学が提出した自己点検評価書に記載された事項の実態を確認することです。原則として、学生と評価チームが一堂に会して行います。なお、大学関係者は同席できません。

面談に出席する学生は、評価チームの要望に応じて大学が選びます。評価チームは、評価員会議で、自己点検評価書やエビデンス資料の書面調査を踏まえて学生に確認すべき点について話し合い、面談に出席してほしい学生の条件を決めます。「各学科から一人ずつ」など、属性と人数が主な条件になります。属性では、「留学生」「学生会の代表」「学生アシスタント経験者」など、大学の特色や取組みに関連したもの、「大学独自の基準」「特記事項」に関連したものなどもあります。大学は、この条件に沿って学生を選び、実地調査前に当機構に名簿を提出します。大学の規模にもよりますが、合計で10人前後になることが多いです。

面談時間は60分が基本です。キャンパスが複数ある、学問系統が大きく異なる学部があるなど、大学の特性によって、評価チームの判断で面談時間を長くしたり、面談を複数回設けたりすることもあります。

■ 課題などは大学との面談に取入れる

実地調査当日の時間割では、学生面談は「大学関係者と基準ごとの面談」より前に設定することが原則です。学生から聞取った内容に、課題と思われる点や不明な点があった場合、その後の面談で大学に質問してから

判断するためです。このように、学生面談で得た情報がそのまま評価結果に反映されることはありません。評価結果に関わらず、大学に伝えるべきと判断した学生の意見や状況は大学との面談で言及することもあります。

学生面談では、まず、評価チーム団長が認証評価の趣旨や面談の目的を説明します。ピア・レビューの精神により評価員は他大学の教職員であることや、話した内容によって学生に不利益は生じないことなども説明し、学生の緊張を和らげます。

具体的な質問事項は、評価基準の基準項目で示されている内容に沿って、事前に評価員会議で協議しています。使命・目的、教育内容や方法、学生生活、施設設備などについて、対応する基準項目を担当する評価員が、学生の属性に応じて指名して質問します。ほかに、評価チームが「優れた点」や「改善を要する点」として指摘する予定の事項は、感想を聞いたり、学生の視点での取組み状況を確認したりします。

■ 学生参画は国際的な流れ

海外では、大学の評価に際し、在学生への面談だけでなく、評価対象大学の学生団体による自己点検評価書を求める国や、他大学の学生が評価チームの一員になる国があります。大学運営において、意思決定組織に学生が入ることが法律で定められている国もあります。主要なステークホルダーである学生の意見を尊重し、大学の質保証に生かす取組みは、日本でも今後更に進めていく必要があると考えます。

表1) 学生面談の概要

項目	概要
目的	自己点検評価書の記載事項の実態を学生の意見や感想を通じて確認する
学生の選び方	評価チームが学生の属性や人数について要望を伝え、大学が選ぶ
面談時間	60分を基本とし、規模や特徴に応じて評価チームの判断で追加する
実施順序	原則として「大学関係者と基準ごとの面談」より先に行う
面談結果の活用	課題などが生じた場合は、「大学関係者と基準ごとの面談」で確認する

表2) 質問の例と対応する主な基準項目

質問の例	対応する主な基準項目
あなたの学科の教育目標は何ですか	1-2. 使命・目的及び教育目的の反映
オフィスアワーを利用していますか	2-2. 学修支援
就職支援の制度に満足していますか	2-3. キャリア支援
大学にハラスメントの相談窓口はありますか	2-4. 学生サービス
図書館の蔵書や設備について意見はありますか	2-5. 学修環境の整備
成績を決める方法について、説明を受けていますか	3-1. 単位認定、卒業認定、修了認定
シラバスの内容はわかりやすいですか	3-2. 教育課程及び教授方法

評価校

学生の学びのための内部質保証に継続的に取り組む



青木 繁 氏
富士大学
理事長

評価結果は、予想通りのものでしたか。

改善を要する点や参考意見はなく、四者面談を通じた教職協働のきめ細かい学生指導など3点を優れた点として挙げていただきました。これは予想を上回る評価結果であったと考えています。大学のみに通知の参考意見については、内容を精査して対応しました。

オンラインによる評価の感想をお聞かせください。

宿泊施設の手配など、実地調査の準備に関わる職員の負担が大幅に減りました。また、事前に面談での質問内容が示されましたので、対応しやすかったと思います。オンラインの面談は、対面の実地調査と異なり基準ごとに分かれられないので、評価員全員が全ての面談に出席し情報共有を図っていただいた点もよかったです。資料のやりとりなど評価員とのコミュニケーションも問題ありませんでした。

受審にあたり、内部質保証体制は見直されましたか。

本学では、平成30年度に実施した全学的な自己点検・評価の結果に基づく改善の一環として、内部質保証体制を確立し、今回はその体制で評価を受けました。

本学の内部質保証は、自己点検・評価委員会が主導し、中期計画に基づいて、IRセンターの情報を活用しながら、大学運営全般と教育活動について自己点検・評価を行い、改善を図るという構図です。自己点検・評価委員会の委員長は理事長である私ですが、私と学

長の指示のもと、教育改革担当副学長が実務を推進するという責任体制でPDCAサイクルを回しています。

内部質保証体制を機能させるポイントについてお聞かせください。

大学として重要なのは、学生が学びを通して学修成果や成長を実感できるということです。そのための内部質保証であることを忘れず、継続的に改善に取り組むことだと考えます。

内部質保証の推進には、教職員の理解と協力を得ることも重要です。私は、教職員に対して、内部質保証は私たち一人ひとりの仕事であり、必要な改善を行って学生の質も高めなければならないと常に伝えていきます。各種の委員会や教授会の運営状況を見ると、その理解は十分に得られていると考えています。

貴学の独自基準と特記事項についてお聞かせください。

独自基準は「地域社会への貢献」を設定しました。本学の建学の精神や大学の目的に、社会や地域の発展に寄与するという内容が含まれています。本学が長年にわたり地域貢献に全学的に取り組んできたことは、学内で広く共有されています。

特記事項は、「地域」「環境」をキーワードにした教育、学び続ける教員養成プログラムを設定しました。地域を今後の日本を支えるフロンティアとして位置づけるという考え方に基づき、平成29年度からディプロマ・ポリシーの卒業時に身に付けている知識に、地域・環境に関する知識を含むことを入れました。また、教職課程で教員を目指す学生が、教員になった後も自ら学び続ける存在になってもらいたいと考え、その実現のための教員養成プログラムを導入しています。

独自基準・特記事項を自己評価する仕組みについて、感想やご意見がございましたら、お聞かせください。

どちらも自己点検評価書の各基準の中ではなかなか述べるチャンスがない事項について記載できる機会となります。この点は、大学にとってありがたく、また好ましいシステムと考えています。

第3期の重点評価項目である内部質保証は、体制を整備する評価校、それを評価する評価員双方から試行錯誤しつつ対応しているとの声が寄せられています。令和3(2021)年度の評価を経験された評価校及び評価員へインタビューを行い、内部質保証体制(整備/評価)やオンラインによる評価などについてご意見を伺いました。

※評価員の守秘義務のため、神谷氏の担当大学名は掲載しません。

評価員

ピア・レビューの精神で相互理解を深める姿勢が大切



神谷 真弓子 氏
東海学院大学 学長
(当機構の短期大学評価判定委員会委員、評価員養成検討委員会副委員長、令和3年度評価チーム団長)

担当校について印象に残っている点についてお聞かせください。

大学・短期大学の同時受審を担当しましたが、いずれも自己点検評価書を読みやすかったことが印象に残っています。受審のてびきで示されている「評価の視点」や「評価の視点に関わる自己判定の留意点」に沿って内容が整理され、エビデンス資料の示し方も適切でした。書面質問や実地調査で追加資料を依頼した際も、丁寧に対応していただくなど、大学・短期大学ともに第三者評価への前向きな姿勢をととても感じました。評価結果では、在学生だけではなく卒業生をはじめとした社会人を対象とした人材育成などを優れている点として挙げました。

内部質保証を評価する上で、どのようなことを重視しましたか。

一つは、内部質保証の方針を定めて、それに基づいて規則や組織を整備し、それらが全学的に情報共有されていることです。もう一つは、基準1から基準5までに沿った全ての活動に関してPDCAサイクルが機能しているかということです。

第3期に評価を担当した大学さんを振り返ると、ほとんどがP→D→C、つまり課題や改善点を見出すまでは機能しているのですが、C→A→Pの活動については、まだ課題が少なくないと感じています。

全てオンラインでの評価でしたが、いかがでしたか。

資料・データの点検や評価チームの情報共有は、オンラインでも不都合はありませんでしたが、実地調査では、よりの確な評価のためには担当校との対面によるコミュニケーションが重要だと感じました。しかしながら、オンラインは評価員の先生方の移動の負担を軽減しますし、電子データでの資料確認にも慣れてきましたので、今後はオンラインと対面を合わせた効率的な評価が行えると思います。

大学・短期大学合同の評価チームで円滑な評価のため工夫された点を教えてください。

同時受審は、単独受審以上に会議の時間配分が難しいことが予想されましたので、自己点検評価書を読み込み、エビデンス資料の精査を徹底し、全ての評価基準について評価の方向性を把握した上で会議に臨むようにしました。評価チームで作業を進める時に最も大切なのはコミュニケーションですが、オンラインの場合、評価員の表情からの斟酌や臨機応変な対応が難しいことがあります。そのため、今まで以上に評価チーム内や、機構職員の方と綿密な打合わせを行うことで、評価を遂行できたと考えています。

評価員養成検討委員会では、今後の研修についてどのような検討をしていますか。

コロナ禍でやむを得ずオンラインで評価員の研修を実施しましたが、参加者の移動時間軽減等のメリットを踏まえ、今後も研修の内容によってはオンラインの活用は十分想定されます。一方、評価員となる心構えを整えていただく観点からは、評価員が一堂に会する意義は大きく、今後の課題と考えます。

評価員として大切にしていることを教えてください。

個人的な考えになりますが、「尊敬と感謝の心をもって評価員としての任務を全うする」の一言に尽きます。ピア・レビューの精神で相互理解を深める姿勢が大切だと考えます。

当機構におけるピア・レビューとは

当機構は、評価の基本的方針の一つに「ピア・レビューを中心とした評価」を掲げています。ピア・レビューとは、仲間や同僚を意味する「ピア」が、互いの経験や知識を活用しながら「レビュー」(評価)し合うという意味で、元来は学術論文の査読などで用いられています。当機構では大学に所属する教職員をピアとし、実際の評価を行う評価員とともに、最終的に評価の判定を行う評価判定委員会委員等を中心に委嘱して、評価を実施しています。

日本の認証評価におけるピア・レビューは、アメリカのアクレディテーション(適格認定)システムをモデルとし、取入れられました。平成3(1991)年の大学設置基準の大綱化以降、日本でも自己点検・評価や外部評価実施が努力義務化される中、平成10(1998)年の大学審議会答申「21世紀の大学像と今後の改革方策について—競争的環境の中で個性が輝く大学—」では、第三者評価システムの導入に関して、ピア・レビューによるアクレディテーションについて言及しています。その後、平成16(2004)

年に学校教育法の改正によって認証評価が法制化された際の「学校教育法第110条第2項に規定する基準を適用するに際して必要な細目を定める省令」で、認証評価は「大学の教員及びそれ以外の者であって大学の教育研究活動等に関し識見を有する者」が従事すると定められ、ピア・レビューを中心に実施することが義務付けられました。

当機構では、客観的かつ公平な評価を行い、ピア・レビューが仲間同士の馴合いにならないよう留意しています。評価員に対しては、勤務経験など評価校と直接的な関係がないことを確認した上で選定し、評価の意義や方法などについて十分な研修を行います。また、評価校は、評価チームの名簿を事前に確認できます。ほかにも、評価判定委員会の委員は、大学に関して広く高い識見を有する国公私立大学関係者、高等学校関係者、学協会及び経済団体等関係者によって構成されています。また、評価校の個別審議の際、関係者である委員は審議に加わらないこととしています。

Annual Plan and Report

当機構の事業計画・事業報告から、主な項目をピックアップしてお知らせします。



令和4(2022)年度 事業計画

● 評価の実施

認証評価 67大学・2短期大学・追評価1大学

● 評価基準等の調査研究

- ・第3期の評価システムの検証と第4期の評価システムの検討
- ・専門職大学等の機関別認証評価の実施に関する調査研究
- ・研修員受入れ制度に関する調査研究
- ・欧州における質保証へのステークホルダー(特に学生)参画についての実態と課題の調査研究
- ・認証評価に関する調査研究報告書の刊行

● 国際関係

- ・協力協定を交わした韓国、フィリピン、上海、台湾等の質保証機関等との交流促進
- ・国際的な質保証ネットワーク機関の活動への参画
- ・諸外国のIR活動の把握

令和3(2021)年度 事業報告

● 評価の実施

認証評価 56大学(適合55/不適合1)・7短期大学(適合7)

● 評価基準等の調査研究

- ・専門職大学・専門職短期大学へ質保証についてインタビュー調査を実施(6月~11月)
- ・タイの評価機関 ONESQAへ職業教育訓練機関の質保証についてオンラインインタビュー調査を実施(3月)
- ・平成30(2018)年度から令和2(2020)年度の評価校へ第3期の評価システム検証のためのアンケート・インタビュー調査を実施(6月~11月)

● 国際関係

- ・米国の高等教育アクレディテーション協議会 CHEA のミーティングへオンライン参加(6月)
- ・アジア・太平洋高等教育質保証ネットワーク APQN のアカデミックカンファレンスへオンライン参加(11月)

令和4(2022)年度の実地調査は対面式で実施

令和4(2022)年度の認証評価は、これまでのコロナ禍の経験を踏まえて、オンラインと対面の双方を取入れて実施します。

評価員を対象とした研修は、昨年度に引き続き、動画の視聴やウェブ会議システムを利用して行いますが、第1回評価員会議と実地調査は、対面式で行います。ただし、実地調査のスケジュールや面談形式などは、一部変更して実施する予定です。今年度の評価を受ける大学・短期大学は、実地調査に係る宿泊施設や面談会場の手配、学内視察ルートの設定等の準備が必要になります。詳しくは、自己評価担当者へお知らせします。

評価員候補者推薦のお願い

次年度の評価員候補者の推薦を、本年10月頃に依頼する予定です。「原則として10年以上の大学等における職務経験を有する専任教員の方及び大学の管理運営や財務に精通している方」の推薦をお願いします。登録期間は3年間です。

当機構では、評価の基本方針「ピア・レビュー」(P.6 参照)に基づき、当機構会員校や日本私立大学協会加盟校などの関係機関から推薦された教職員の方々を評価員候補者として登録し、その中から対象校の評価を行う評価員を委嘱しています。

今年度は、大学67校、短期大学2校の認証評価を、約340人の評価員の協力を得て行っています。令和5(2023)、令和6(2024)年度は、評価校数の増加が見込まれ、多くの評価員が必要となりますので、評価員候補者の推薦についてご協力のほどよろしくお願いいたします。



「評価員」ページ

第4期評価システムの検討を開始

平成16(2004)年度に開始された機関別認証評価制度は、令和7(2025)年度に第4期を迎えます。

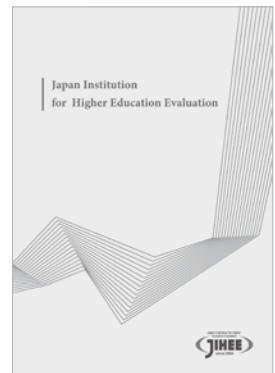
文部科学省が令和4(2022)年3月に出した質保証システム部会の「新たな時代を見据えた質保証システムの改善・充実について(審議まとめ)」と学校法人制度改革特別委員会の「学校法人制度改革の具体的方策について」の報告書を踏まえて、私立学校法をはじめ、大学設置基準や認証評価制度に関する多くの法令改正が予定されています。それらを踏まえて、当機構では、評価基準や評価方法などについて、大学評価判定委員会の下部組織である評価システム改善検討委員会で見直しを進めています。新しい評価システムは、令和6(2024)年度当初に公表し、会員校等を対象に説明会を開催する予定です。

英語版パンフレットのリニューアルについて

令和4(2022)年度に英語版パンフレットをリニューアルします。当機構が行う認証評価の目的や評価基準、調査研究のテーマ等を英語で紹介しています。後日、当機構のホームページ(英語版)に掲載するとともに、会員校等に送付しますので、海外の大学や調査研究等の関係者に対し、日本の評価制度や当機構の概要を紹介する際にご活用ください。



「Brochure (English)」ページ



左右に配置された流線は(地球)と、両手で作る(輪)をイメージしています。大学と社会を結ぶ機構でありたいとの想いを込めました。

PeeR(ピア) 第17号

令和4(2022)年7月12日発行

編集人 伊藤敏弘

編集 小林澄子 江成一敏 板垣智香 横浜裕太 末永佳祐 中里祐紀 白石万理 田中裕彬 山田大暉

発行 公益財団法人 日本高等教育評価機構

所在地 〒102-0073 東京都千代田区九段北4-2-11 第2星光ビル2階

TEL 03-5211-5131 FAX 03-5211-5132 URL <https://www.jiheer.or.jp/>

当機構へのご意見・ご質問や「PeeR(ピア)」へのご要望はこちらへ

✉ hyoukakikou@jihiee.or.jp

ホームページからお問合せいただけます



大学
349校

公立 1校

- 山口 1校
- 周南公立大学

私立 345校

- 北海道 18校
- 旭川大学
- 育英館大学
- 札幌大学
- 札幌大谷大学
- 札幌国際大学
- 札幌保健医療大学
- 星槎道都大学
- 日本医療大学
- 函館大学
- 北翔大学
- 北星学園大学
- 北洋大学
- 北海学園大学
- 北海道科学大学
- 北海道情報大学
- 北海道千歳
- リハビリテーション大学
- 酪農学園大学
- 青森 6校
- 青森大学
- 青森中央学院大学
- 柴田学園大学
- 八戸学院大学
- 八戸工業大学
- 弘前医療福祉大学
- 岩手 2校
- 富士大学
- 盛岡大学
- 宮城 6校
- 尚絅学院大学
- 仙台大学
- 東北医科薬科大学
- 東北工業大学
- 東北生活文化大学
- 東北文化学園大学
- 秋田 2校
- 秋田看護福祉大学
- ノースアジア大学
- 山形 3校
- 東北芸術工科大学
- 東北公益文科大学
- 東北文科大学
- 福島 3校
- 奥羽大学
- 東日本国際大学
- 福島学院大学
- 茨城 2校
- 筑波学院大学
- 日本ウェルネス
- スポーツ大学
- 栃木 3校
- 足利大学
- 国際医療福祉大学
- 作新学院大学
- 群馬 7校
- 関東学園大学
- 共愛学園前橋国際大学
- 桐生大学
- 群馬医療福祉大学
- 群馬バース大学
- 高崎商科大学
- 東京福祉大学
- 埼玉 19校
- 浦和大学
- 共栄大学
- 埼玉医科大学
- 埼玉学園大学
- 十文字学園女子大学

- 尚美学園大学
- 女子栄養大学
- 西武文理大学
- 東都大学
- 東邦音楽大学
- 日本医療科学大学
- 日本工業大学
- 日本保健医療大学
- 日本薬科大学
- 人間総合科学大学
- 平成国際大学
- 武蔵野学院大学
- 明海大学
- ものづくり大学
- 千葉 16校
- 愛国学園大学
- 植草学園大学
- 江戸川大学
- 開智国際大学
- 亀田医療大学
- 川村学園女子大学
- 神田外語大学
- 三育学院大学
- 秀明大学
- 聖徳大学
- 清和大学
- 千葉科学大学
- 千葉工業大学
- 千葉商科大学
- 了徳寺大学
- 麗澤大学
- 東京 41校
- 桜美林大学
- 大妻女子大学
- 嘉悦大学
- 国立音楽大学
- 国士館大学
- こども教育宝仙大学
- 情報経営イノベーション
- 専門職大学
- 昭和大学
- 杉野服飾大学
- 高千穂大学
- 多摩大学
- 帝京大学
- 帝京科学大学
- 帝京平成大学
- 東京有明医療大学
- 東京医療学院大学
- 東京音楽大学
- 東京家政学院大学
- 東京工科大学
- 東京純心大学
- 東京女子体育大学
- 東京聖栄大学
- 東京成徳大学
- 東京造形大学
- 東京富士大学
- 東京未来大学
- 桐朋学園大学
- 二松学舎大学
- 日本医科大学
- 日本歯科大学
- 日本獣医生命科学大学
- 日本女子体育大学
- 日本体育大学
- 日本文化大
- ハリウッド大学院大学
- 文化学園大学
- 文化ファッション大学院大学
- 武蔵野音楽大学
- 目白大学
- ヤマザキ動物看護大学
- SBI大学院大学
- 神奈川 14校
- 神奈川工科大学
- 鎌倉女子大学
- 産業能率大学

- 松蔭大学
- 湘南医療大学
- 昭和音楽大学
- 星槎大学
- 聖マリアンナ医科大学
- 田園調布学園大学
- 日本映画大学
- 八洲学園大学
- 横浜商科大学
- 横浜創英大学
- 横浜薬科大学
- 新潟 6校
- 国際大学
- 長岡大学
- 新潟医療福祉大学
- 新潟経営大学
- 新潟国際情報大学
- 新潟青陵大学
- 富山 3校
- 高岡法科大学
- 桐朋学園大学院大学
- 富山国際大学
- 石川 6校
- 金沢学院大学
- 金沢工業大学
- 金沢星稜大学
- 金城大学
- 北陸大学
- 北陸学院大学
- 福井 2校
- 仁愛大学
- 福井工業大学
- 山梨 3校
- 健康科学大学
- 身延山大学
- 山梨学院大学
- 長野 4校
- 佐久大学
- 長野保健医療大学
- 松本大学
- 松本歯科大学
- 岐阜 5校
- 朝日大学
- 岐阜医療科学大学
- 岐阜協立大学
- 岐阜女子大学
- 東海学院大学
- 静岡 5校
- 静岡英和学院大学
- 静岡産業大学
- 静岡福祉大学
- 静岡理工科大学
- 浜松学院大学
- 愛知 32校
- 愛知学院大学
- 愛知学泉大学
- 愛知工科大学
- 愛知工業大学
- 愛知産業大学
- 愛知東邦大学
- 愛知文教大学
- 愛知みずほ大学
- 一宮研伸大学
- 桜花学園大学
- 岡崎女子大学
- 金城学院大学
- 修文大学
- 福山女学園大学
- 星城大学
- 大同大学
- 中部大学
- 東海学園大学
- 同朋大学
- 豊橋創造大学
- 名古屋音楽大学
- 名古屋外国語大学
- 名古屋学芸大学
- 名古屋経済大学

- 名古屋芸術大学
- 名古屋産業大学
- 名古屋女子大学
- 名古屋造形大学
- 名古屋文理大学
- 日本福祉大学
- 人間環境大学
- 名城大学
- 三重 3校
- 鈴鹿医療科学大学
- 四日市大学
- 四日市看護医療大学
- 成安造形大学
- 聖泉大学
- びわこ学院大学
- びわこ成蹊スポーツ大学
- 京都 14校
- 京都医療科学大学
- 京都外国語大学
- 京都華頂大学
- 京都看護大学
- 京都芸術大学
- 京都情報大学院大学
- 京都先端科学大学
- 京都美術工芸大学
- 嵯峨美術大学
- 種智院大学
- 花園大学
- 佛教大学
- 平安女学院大学
- 明治国際医療大学
- 大阪 36校
- 大阪青山大学
- 大阪大谷大学
- 大阪音楽大学
- 大阪河崎
- リハビリテーション大学
- 大阪観光大学
- 大阪経済法科大学
- 大阪芸術大学
- 大阪工業大学
- 大阪国際大学
- 大阪歯科大学
- 大阪樟蔭女子大学
- 大阪商業大学
- 大阪成蹊大学
- 大阪電気通信大学
- 大阪人間科学大学
- 大阪物療大学
- 大阪保健医療大学
- 大阪行岡医療大学
- 関西医療大学
- 関西外国語大学
- 関西福祉科学大学
- 滋慶医療科学大学
- 四條畷学園大学
- 四天王寺大学
- 摂南大学
- 千里金蘭大学
- 相愛大学
- 太成学院大学
- 宝塚大学
- 帝塚山学院大学
- 常盤会学園大学
- 梅花女子大学
- 羽衣国際大学
- 東北国際大学
- 森ノ宮医療大学
- 大和大学
- 兵庫 14校
- 芦屋大学
- 大手前大学
- 関西国際大学
- 関西福祉科学大学
- 甲子園大学
- 甲南女子大学
- 神戸医療未来大学

- 神戸芸術工科大学
- 神戸国際大学
- 神戸常盤大学
- 宝塚医療大学
- 姫路獨協大学
- 兵庫大学
- 兵庫医科大学
- 奈良 2校
- 奈良大学
- 奈良学園大学
- 和歌山 1校
- 和歌山信愛大学
- 岡山 8校
- 岡山商科大学
- 環太平洋大学
- 吉備国際大学
- 倉敷芸術科学大学
- くらしき作陽大学
- 山陽学園大学
- 中国学園大学
- 美作大学
- 広島 11校
- エリザベト音楽大学
- 比治山大学
- 広島経済大学
- 広島工業大学
- 広島国際大学
- 広島都市学園大学
- 広島化学学園大学
- 広島文教大学
- 福山大学
- 福山平成大学
- 安田女子大学
- 山口 5校
- 宇部フロンティア大学
- 至誠館大学
- 東亜大学
- 梅光学院大学
- 山口学芸大学
- 徳島 1校
- 徳島文理大学
- 香川 2校
- 四国学院大学
- 高松大学
- 愛媛 1校
- 松山東雲女子大学
- 福岡 14校
- 九州栄養福祉大学
- 九州共立大学
- 九州国際大学
- 九州女子大学
- 久留米工業大学
- 純真学園大学
- 西南女学院大学
- 聖マリア学院大学
- 第一薬科大学
- 筑紫学園大学
- 西日本工業大学
- 日本経済大学
- 福岡工業大学
- 福岡国際医療福祉大学
- 佐賀 1校
- 西九州大学
- 長崎 4校
- 鎮西学院大学
- 長崎外国語大学
- 長崎国際大学
- 長崎総合科学大学
- 熊本 5校
- 九州看護福祉大学
- 熊本保健科学大学
- 尚絅大学
- 崇城大学
- 平成音楽大学
- 大分 2校
- 日本文理大学
- 別府大学
- 宮崎 4校

- 九州保健福祉大学
- 南九州大学
- 宮崎国際大学
- 宮崎産業経営大学
- 鹿児島 3校
- 鹿児島純心女子大学
- 志学館大学
- 第一工科大学
- 沖縄 2校
- 沖縄キリスト教学院大学
- 沖縄国際大学

株式会社 3校

- 東京 2校
- ビジネス・
- ブレイクスルー大学
- LEC 東京リーガル
- マインド学院大学
- 福岡 1校
- サイバー大学

短期大学
26校

私立 26校

- 北海道 1校
- 札幌大谷大学短期大学部
- 青森 1校
- 八戸学院大学短期大学部
- 福島 1校
- 福島学院大学短期大学部
- 栃木 1校
- 作新学院大学
- 女子短期大学部
- 東京 3校
- 上野学園大学短期大学部
- 大妻女子大学短期大学部
- 自由が丘産能短期大学
- 神奈川 2校
- 鎌倉女子大学短期大学部
- 昭和音楽大学短期大学部
- 石川 1校
- 北陸学院大学短期大学部
- 岐阜 1校
- 東海学院大学短期大学部
- 静岡 1校
- 静岡英和学院大学
- 短期大学部
- 滋賀 1校
- びわこ学院大学短期大学部
- 大阪 2校
- 大阪音楽大学短期大学部
- 大阪芸術大学短期大学部
- 兵庫 1校
- 兵庫大学短期大学部
- 岡山 2校
- 作陽短期大学
- 山陽学園短期大学
- 広島 2校
- 比治山大学短期大学部
- 安田女子短期大学
- 山口 1校
- 宇部フロンティア大学
- 短期大学部
- 愛媛 1校
- 松山東雲短期大学
- 福岡 2校
- 西南女学院大学短期大学部
- 福岡こども短期大学
- 熊本 1校
- 尚絅大学短期大学部
- 鹿児島 1校
- 第一幼児教育短期大学